



Unit2 多文化のまちで暮らす JICAバヌアツ山口さん講話

振り返りまとめ

2026.7.13

Q1 講話を聞いて、国際協力やJICA海外協力隊の活動について思ったことを記入してください。

挑戦する人や心を開く人などに近いと思った。
なぜなら、言語も文化も異なる国に行くこと、
伝わらないかもしれないが声をかけに行くこと
など、自分には想像もできないようなことをして
いるから。

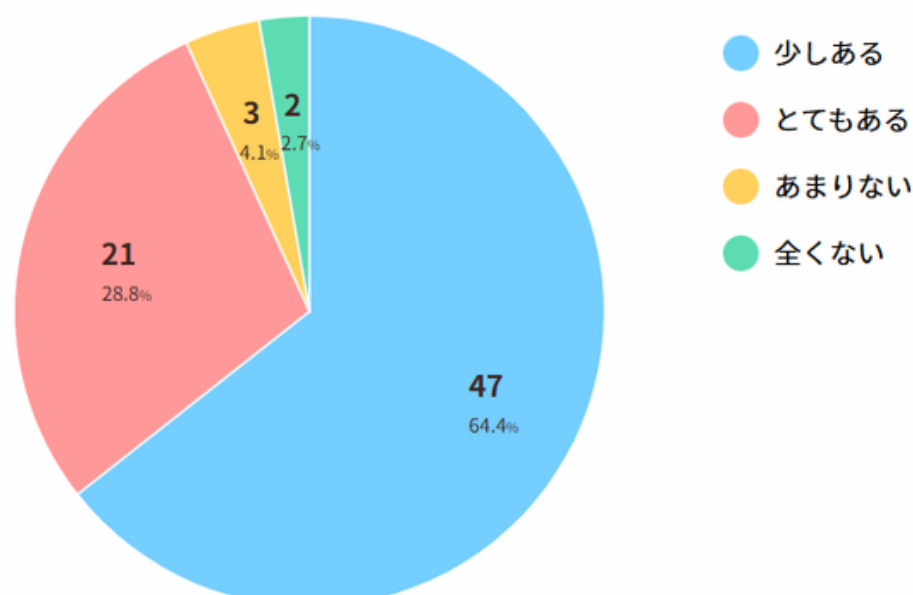
莫大とした大きな目標(世界平和など)に、今の私達が貢
献するのが難しいというのは、すごく感じた。
自分たちが出来る一歩から、一歩ずつしっかり踏んでい
くことが、国際協力に繋がると大きく感じたし、何より
自分の持っている資産を分け与えるという事が、周りの
幸せにも影響していくと思った。アハマドさんの講話で
もあった「喜捨」の様に、自分が持っている物を分け隔
てなく、誰かに渡すという事も、国際的にも国内での活
動であっても、広げていける輪だと感じた。

Q2 講話の中で、最も印象に残ったことは何ですか。

最も印象に残ったことは、現地で知った「本当の豊かさとは何か」と
「日本は恵まれている」と改めて感じたことです。
講師の方が感じた「本当の豊かさ」とは、「人に見返りを求めずに優し
さを分け合えること」です。豊かさにはお金や資源は関係なく、人間
一人一人の「人間性」が表れるものだと考えました。
そして、日本は恵まれていると強く感じました。それは、バヌアツで
の課題にあります。日本では学校に通って勉強ができるし、道路がきれ
いに整備されている。バヌアツでは真反対の事。

食
べ
る
こ
と
コ
ウ
モ
リ
を

Q3 海外や国際協力への関心はありますか。(本校の教育理念にも関係します)



Q4 講話を聞いて、自分の生活や考え方について振り返ることはありますか。

自分の生活の中では、「海外に支援する」とか「JICAに入りたい」とか、少しハードルの高い内容は出てこないと思う。しかし、「相手を理解しようとする精神」は、国際協力などの問題だけでなく、日常の生活にも応用できるスキルだと思う。10の学習者像で言えば、「心を開く人」や「挑戦する人」。この力を使って、新たな場でも対応ができる。そのようなことが理想だと考える。

私はよく、自分にないものや劣っているところばかり探して落ちこんでしまうことがあるけれど、「本当の豊かさや幸福とは何か」という問いを投げかけられて、もっと良い点を見つけていって、人と幸せを共有できる人間になりたいと思った。

Q5 これから自分がもっと知りたいと思ったことは何ですか。

ほかの地域ではどんなことが問題になっているのか。
それをどうすれば今の自分たちの力で解決できるのか。

私はこれからもっと「自分のやりたいこと、興味のある事、成し遂げたいこと」について知っていきたいと感じました。なぜなら、己を知らない限りには先に進むべき最適解は導き出せないと考えるからです。その中でも今の自分のままでは不十分なままで先を目指してしまうと考えました。その為これからは己を知り、己の行く道を示していきたいです。

Q6 隊員の方へのメッセージや感想を書いてください。

日本とは異なることばかりで慣れず恐れ多い環境でありながら果敢に挑戦する愛花さんの姿に驚いた。多くの人が青年海外協力隊に参加する際に言語や文化の違いにハードルの高さを感じ、諦めるケースも少なくない中で、子供のころからの夢を追い求め続け、ついに実現させた行動力に感激した。僕も海外にはとても興味があり、将来は世界で羽ばたいていきたい。そのためにも、まずは愛花さんがおっしゃられていた『知る』ことから、将来の夢に向けて準備していきたい。

今回の講習会は、国のことや、JICAの仕事を詳しく知れて、「当たり前」ということについて考えさせられました。自分も、いつか海外へ行き、働いてみたいなと少し思っています。その時は、今の暮らしより不便でも、幸福度を高いまま維持したいなと思いました。

10年後には、みんなは社会で活躍していることでしょう。日本からびっくりするほど遠いところにいる人もいることでしょうね！
楽しみだ… ^ ^